

## (仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会について

### 1 概要

戦後71年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、市民に戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとするため、新たに(仮称)平和資料館を設置する。

そこで、施設のあり方や展示内容等、平和資料館の基本的な方向性について、有識者や戦争を体験された方、他の公立の平和資料館の関係者等から意見をいただく「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」を本年1月から開催している。

これまで、懇話会を2回開催しており、内容は次のとおりである。

(1) 第1回の懇話会(1月18日)では、

- ・他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例
- ・北九州市の戦前の歴史
- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所(案)

について、事務局からの説明を行った。

(2) 第2回の懇話会(2月15日)では、(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所等について活発な意見交換を行った。

引き続き、懇話会を開催し、委員から意見をいただく予定である。

2 開催期間 平成29年1月～平成29年4月(4回～5回)

### 3 今後の取り組み

議会からのご提案などを踏まえつつ、懇話会での議論を深め、展示コンセプトや建設場所等をまとめた(仮称)平和資料館の基本計画をまとめる。

#### 《資料》

- |                            |         |
|----------------------------|---------|
| ・懇話会委員名簿                   | 別紙1のとおり |
| ・懇話会の進め方(意見聴取事項)           | 別紙2のとおり |
| ・資料館のコンセプト・建設場所等(たたき台)及び論点 | 別紙3のとおり |
| ・第1回懇話会での主な意見              | 別紙4のとおり |
| ・第2回懇話会での主な意見              | 別紙5のとおり |

## (仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会委員名簿

氏 名	所 属 等
天川 悦子	北九州童謡・唱歌かたりべの会会長
上田 眞奈美	北九州市PTA協議会副会長
甲木 正子	西日本新聞社北九州本社営業部長
後藤 みな子	北九州市文学協会理事長
佐方 はるみ	元市立小学校長(九州女子大学人間科学部特任教授)
戸高 一成	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)館長
中村 明俊	長崎原爆資料館館長
原田 純子	南九州市知覧特攻平和会館主査
南 博	北九州市立大学地域戦略研究所教授
三好 正一	北九州市遺族会連合会会長
山本 みさと	北九州市立大学学生 (太鼓と平和を考える学生連絡協議会代表)

(敬称略・50音順)

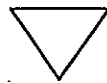
## (仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会の進め方

1月 18日  
(水)

## 第1回 懇話会

(議題)

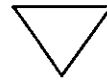
- ・他館のコンセプト事例及び・コンセプトに即した機能事例
- ・北九州市の戦前の歴史
- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所(案)  
についての説明

2月 15日  
(水)

## 第2回 懇話会

(議題)

- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等
- ・建設場所  
についての意見聴取

3月 24日  
(金)

## 第3回 懇話会

(議題)

- ・1～2回懇話会のまとめ資料
- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等
- ・建設場所
- ・委員意見の中間まとめ  
についての意見聴取



4月～5月

## 第4回～5回 懇話会

(議題)

- ・委員意見の最終まとめについての意見聴取

## 第 1 回 懇話会配布資料

## 議題 (3)

## (仮称) 平和資料館のコンセプト・設置場所 (案)

本市では戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に伝えるため、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」や「北九州市非核平和都市宣言」の実施、「戦時資料展示コーナー」における戦時下の暮らしを中心とした資料の展示等、様々な取り組みを進めてきた。

戦後 71 年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなるよう、新たに (仮称) 平和資料館を建設するもの。

なお、下記のコンセプト等は懇話会の活発な議論のため、例示している。

1 (仮称) 平和資料館のコンセプト

- 北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設
- 平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

2 (仮称) 平和資料館の主な展示内容

- (1) 八幡大空襲を始めとする本市の空襲に関する資料
- (2) 長崎の原爆に関する資料
- (3) 戦後の復興に向けた市民生活に関する資料
- (4) 米国国立公文書館から収集した資料

※現在のコーナーに加える主な資料

3 (仮称) 平和資料館の建設候補地

小倉北区：勝山公園の一角（関連事項・小倉造兵廠、長崎原爆の投下予定地）

他に市議会より八幡東区、門司区「めかり山荘跡地」の意見もでてている。

## 議題（1）

### （仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所等

懇話会の活発な議論のため、本市が例示している別紙「（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所（案）」について論点を示している。

論点1.（仮称）平和資料館のコンセプトについて

論点2.（仮称）平和資料館の主な展示内容について

論点3.（仮称）平和資料館の展示方法について

論点4.（仮称）平和資料館の建設場所について

第 1 回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見  
(平成 29 年 1 月 18 日 (水) 開催)

【平和資料館の必要性等について】

- ・子どもの頃から 8 月 9 日になると父親から「もし小倉に原爆が落ちていたら、お前は生まれていない」と言われて育った。その言葉は私の息子にも語り継いでいる。北九州にこのような施設ができる事は、すごく意味のあることだと思う。
- ・小倉が原爆投下予定地という事を全く知らなかった。しばらくした後に、長崎ではなく小倉に原爆投下する予定だったことを知り、運命的なものを感じた。戦後 70 年経って平和資料館をつくる事は、戦後の重みを負った精神性の高いものであって欲しいと願っている。
- ・戦後 70 年近いこの時間は、押しとどめられない本当に大変な時間だと感じている。今、こうした施設をつくろうというのは、本当に最後のチャンスだと思う。ものの考え方は人それぞれ自由ですが、事実の一つでなければいけない。正しい事実を正しく伝える施設をきちんとつくっていただきたい。
- ・平和という事を後世の人たちにも、皆さん方がはっきりわかって「戦争という事はしてはいけない」ということを今回、北九州市でも（平和資料館の設置を）やろうという事に対して私たちも本当に賛成している。
- ・建物自体が鎮魂の思いを抱かせるような、他の商業施設とは違った建物であって欲しい。鎮魂の思いを感じさせるような場所と建物であって欲しいと思っている。

【体験を伝えていくことの重要性について】

- ・父母や祖母から戦争の話は聞いているが、直接体験したことはない。八幡大空襲の膝元で、近所の方からも戦争の話しを聞くことはたくさんあった。子どもたちに二度とこういう思いをして欲しくない、この思いを引き継いで欲しいと思っている。
- ・防災に関する授業を長年行なっており、阪神淡路大震災、東日本大震災や熊本地震などを通じ、その地で起こった出来事を記録すること、語り継ぐこと、次世代が学んでいくことの重要性を常日頃感じている。もちろん戦災と震災とは違う面があるが、教訓という部分では共通する所があるのではないかと考えている。

第2回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見  
(平成29年2月15日(水)開催)

【平和資料館のコンセプト】

- ・地域の歴史資料館であることを中心として、地域と戦争との関わりという点を明確にする必要がある。
- ・平和資料館は全国にある。北九州市と戦争の関わり、空爆、原爆などの中で独自性が大事である。
- ・若い人は平和が大事と言われても実感が無い。平和資料館が建設されるなら、“北九州市のなぜこの場所に資料館が建てられたのか” “なぜ資料館に行かなければならないのか”を明確にした方がよい。
- ・学校の平和教育の授業では、広島、長崎、沖縄などが主に取り扱われているので、北九州市の戦争の歴史があまり知られていない。平和資料館ができると、子どもたちに対して、北九州市の戦争の歴史について情報を発信できる。
- ・北九州市民以外の人にも資料館に来てもらうためにも、“なぜ、北九州市に資料館があるのか”ということを確認にした方がいい。
- ・長州戦争～第12師団～小倉造兵廠～原爆の目標地となった歴史を表示すべき。

【平和資料館の展示内容・展示方法】

- ・展示内容は北九州、すなわち地域特有の内容を中心とするべきで、“ここでしか見られない”という特色ある内容を追求した方がよい。
- ・展示内容は、事実が全てであるので、淡々と資料を見せる展示方法でよい。
- ・子どもが当時のことを実感できるように、戦争のことだけでなく、どのようなものを食べていたのかなど生活の内容がわかるものも展示してほしい。
- ・原爆も大事なことだが、戦後の市民の暮らしや苦労も大事だ。
- ・子どもに戦争で何人が亡くなったと言っても数字では理解できない。展示にはストーリーが必要である。
- ・映像や音響など五感を通じて体験できるものがよい。

【建設場所について】

- ・歴史的必然性が考慮されるべきである。軍都小倉や陸軍造兵廠があった小倉が最もふさわしい。
- ・原爆の投下予定地は他にもあったが、実際に爆撃機が来て、投下しなかったのは北九州だけである。
- ・市内だけでなく市外の人にも来てもらえるように、交通の結節点である場所に位置することが望ましい。
- ・勝山公園が陸軍の造兵廠であったことを知らずに遊んだり、ジョギングしたりしている人がたくさんいる。勝山公園に資料館があれば、「昔は軍の施設があったが、今は平和の象徴となっている」ということを知らせることができる。
- ・資料館は中央図書館横の勝山公園駐車場付近が良い。
- ・近隣に大型バスなどが駐車できる場所がよい。